

日 中 文 化 交 流

日本中国文化交流協会編集

No. 890 2020. 5. 1

未来医学研究会は、東京女子医科大学先端生命医科学研究所(旧医工学研究施設)が運営する社会人に対する医学教育「バイオメディカル・カリキュラム」修了後の交流の場として、1978年1月14日に発足した。バイオメディカル・カリキュラムの修了生は既に2000名を超え、医薬・医療機器産業を中心に様々な分野の第一線で活躍している。2009年4月26日には一般社団法人化し、バイオメディカル・カリキュラム修了生に加え、先端医療の研究開発に関する学識あるいは経験を有し、未来医学・医療に関心を持つ、より多くの方々の参加も可能とした。本研究会は会員同士が各自の所属組織を超えて現在の先端医学・医療のさらには先にある未来の医学・医療について予想し、生じうる様々の課題に対する解決策を議論している。



未来医学研究会の 夢と信念

～日中交流による未来医療の実現

未来医学研究会会長、東京女子医科大学
先端生命医科学研究所所長・教授

清水達也

歴代施設長である桜井靖久先生、岡野光夫先生を引き継ぎ2019年4月より私が3代目の会長に就任させて頂いた。これまでの本研究会の活動をさらに活性化させるべく定期的なセミナーやウェブにて会員の方々に魅力的な情報を提供するとともに、「こんなこといいなできたらいいな」という各会員が創造する未来医学・医療(夢)について語り合案や達成に向けた強い意欲(信念)を持った会員の協力体制の構築を実行していきたいと考えている。具体的には生体外での臓器作製や臓器治療、モバイル手術室、そして宇宙医療にまで及んでいる。

一方でこれらの未来医療の実現には従来の縦型の仕組み、そして各国個別の研究開発競争を打破し、横断的国際協調的枠組みの構築も肝要である。既に本研究会では森清一副会長(株式会社エムシー)と安田章夫理事(ソニー株式会社)のリーダーシップのもと、中国との未来医学をテーマとした交流を開始しており、2011年には本研究会のメンバーが北京、天津、上海の先端医療の現場を訪ねるとともに、2012年には王秀雲中国日本友好協会副会長を団長とする中国からの未来医学代表団が東京女子医科大学先端生命医科学研究所を訪問、先端医療イニシアチブシンポジウムが開催された。これらの交流を皮切りに、その後、本研究会に関連する大学人・企業人が日本青少年訪中代表団の学術研究者メンバーとして中国を訪問、さらには本研究所に所属する学生も日本中国文化交流協会大学生訪中団に参加させていただき継続的な交流が続いている。参加者の多くは中国の医療の先進性、日中交流の重要性を体感したようである。

今後は本研究会が要となつて日中間での人材交流をさらに加速するとともに、タイムリーな技術融合を図ることで未来医療を切り開き、アジアそして世界の医療に貢献、疾病に苦しむ数多くの人々の救済に尽力していきたい。

(しずみ・たつや)